

○議長（茅沼隆文）

引き続き一般質問を行います。11番、吉田敏郎議員、どうぞ。

○11番（吉田敏郎）

皆さん、こんにちは、11番、吉田敏郎でございます。さきの忠告どおり、2項目について、質問をさせていただきます。

一つ目といたしまして、町道改良事業は、町道204号線の進捗状況を問うということで質問させていただきます。第五次開成町総合計画後期基本計画が策定をされまして、今後のまちづくりの方向性が示されました。その中で安全・安心な道路の整備の課題として、幹線道路の整備を進める必要性や老朽化が進む道路や橋梁の修繕、狭あい道路の拡幅など、町民に身近な生活道路の整備や維持管理等計画として様々な取り組みをうたっておりますしかしながら現状としては計画どおりに進んでいない状況にあるということを感じております。

その中で町道改良事業204号線の進捗状況及びこれからの計画をお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

まず、道路については、生活や経済活動に不可欠であり、社会基盤の根幹であります。安全・安心な道路づくりとして、老朽化が進む道路に対する必要な修繕や狭あい道路の拡幅などによる交通の円滑化が図れるよう、計画的に整備を進めております。

また、道路整備については、計画的に取り組むため、道路整備に関する基本的、総合的な計画として、開成町住環境整備マスタープランを作成、平成25年2月に策定いたしました。このマスタープランは市街化区域である既成市街地において、町道の将来の将来道路網を立案し、優先度を踏まえた整備時期を明確化いたしました。この中で具体的に整備を進める路線や実施年度については、総合計画に位置付けをして進めております。第五次開成町総合計画前期基本計画では、町道204号線、町道235号線など、11カ所を位置付けて整備を進めております。改めて第五次開成町総合計画後期基本計画位置付けた路線について、引き続き地元の御理解、御協力をいただきながら整備を進めてまいります。

では、町道204号線についてお答えをいたします。第五次総合計画では、予定事業区間は足柄大橋下から大長寺までの延長470メートルであります。町道204号線の整備概要は、現況の道路幅2.6メートルから4.6メートル、車道4.5メートルと歩道2メートルの全体6.5メートルに拡幅改良する計画であります。

平成25年度から事業の内容についての地元説明会を開催をし、地形図を作成するための現地測量を実施をし、以降、道路用地の買収に必要な用地測量、工事実施に向けた設計等を行ってきました。道路を拡幅事業を進めるためには、何よりも道路用地が必要であります。道路用地の確保には、町民の方の貴重な土地をお譲りいただくこと。その上にある工作物などを移転していただくことをお願いしております。

平成30年度末の道路用地の取得率は、約27%の見込みであり、着実に道路用地の取得を進めております。引き続き地権者の皆様の御理解と御協力を得ながら、用地取得に取り組んでまいります。また、用意取得と並行して、一連一つながりのまとまった区間で、整備が可能で、整備効果が見込まれる箇所から順次工事を実施していく予定であります。本区間の工事については、本来ならば、南側から北側に向かって整備を進めていきたいところではありますが、足柄大橋北側付近の方については、事業への理解が得られてないため、榎本地区を先行していくように取り組んでおり、2020年度には、工事を実施する方向で今考えております。

以上であります。よろしくお願いたします。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

ただいま町長より答弁をいただきました。簡略的にいろいろ説明をしていただいて、答弁していただき、最後に少し答えをいただいているところでもありますけれども、この204号線については、私も3年前に質問し、また6年前にもなったばっか、ちょっとの後に質問させていただいております。地権者の御理解と御協力がなければ、なかなか前に進めないということは、理解をするところでもありますけれども、やはり地元地域住民の方にとっては、大変関心の深い部分でございますので、それを含めて、質問をさせていただきます。

町長答弁の中にもございますけれども、204号線については、足柄大橋から大長寺まで470メートル、そして、204号線の概要として、現在の24メートルから4.6メートルを6.5メートルにするという改良する計画であり、25年度から地元説明会を通して、地形図を作成するため、現地測量を実施しているということでもあります。その中で平成26年度は、路線の測量、それから用地測量の実施、そして平成27年度は、道路工事に必要な車道、歩道、配水施設などの用地測量の実施をしていくということでもあります。

そして、平成28年度から30年度までは、詳細設計の内容について、地元説明会を開催して、そして不動産鑑定及び保証物件の調査を実施をして、地権者の協力を得ながら、用地取得を中心に取り組んでいくということが3年前の私の質問のときに、そういう答弁をいただいております。なかなか現在、町長答弁の中で、そういうことの答弁をいただきましたけれども、なかなか進んでいくのは難しいのかなという、そういうことが伺われますけれども。

この補償対象の地権者の数は、前の質問のときには、筆数が36筆、そして、地権者の数は20名以上の方が対象という答弁をいただきましたけれども、現在、その数は変わらないのか、ちょっとその辺まず教えてください。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えをいたします。今回、事業区間として足柄大橋下から大長寺までの区間470メートルにおけます、調査等している中で、今現時点で用地買収ですね。御協力をお願いしたいというところに関しては、全部で41筆という形の中で、対象者としては今現時点で26名なのかなというところで確認してございます。実際、その土地自体は、売買とか、分筆等があれば、また変わってくるところでございますけども、今現時点で、そのような数の中で把握してるということでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

現在は、41ですか、26名ということで答弁いただきました。470メートルの中で、そういう方たちがいらっしゃって、非常に理解をされている方もいらっしゃいますし、ということでありますけれども、この答弁の中で、平成30年度末の道路用地の取得率は27%の見込みであるということでございますけれども、この30年度末、このあと少しですけれども、そのときまでの、現在30年度末の、今取得率は、27%の見込みということですが、現在、今どのくらいの見込みになっているのか、ちょっとお願いします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えします。用地買収につきましては、平成29年度からの取り組みのほうをしているところでございます。

町長答弁にもございましたけども、平成30年度末ということでは、約27%、面積にしまして約95平米という形の中で取得できる見込みでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

見込みということで、今、答弁をいただきました。

この204号線、これから、用地取得と並行して、また、先ほどの町長の答弁もありますけれども、一連のひとつながりの、まとまった区間で整備が可能で、整備効果の発現が見込まれる箇所から、徐々に工事を実施していく予定であると。確かにこの一連の区間で整理が可能なところがあれば、順に工事をしていくよという答弁、いただいております。前にもそのような形でいただいておりますけれども、この一連というのを、確かに、前回、一連のつながりのまとまった整備ができる。その工事を実施していく予定で、一連の区間の距離ということをお聞きしたところ、なかなかその問題を整備して、事故が減少し、そして、するとか、民間のそういった区間を見込みながら、そういうことをこれから進めていくよということなのですけれども、この一

連のつながりという区間、まとまった区間というのは、今の足柄大橋の下から大長寺までの470メートルの中で、どのくらいの距離が想定したら、できる見込みがあるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えします。工事の進め方という御質問でございますけれども、まず、一連の区間という部分では、特に決まったルールというのはございません。ただ、議員御承知のとおり、あまり工事の延長が短いと、整備後の効果というものが見られないというところの中で判断してくというところでございます。また、工事をあまり分割してまいりますと、工事費の積算上で直接的な工事費用に対する諸経費というのがございませぬけれども、そういった割合が高くなるという部分のことがございます。したがって、あまり効果的ではないというところの中では、やはり一連の区間ということでは、ある一定の延長が必要なのかなと考えてございます。全体の延長が470メートルということでございますので、やはり4分割、5分割、状況によっては、そういったことも考えつつ、行っていくのかなと思っています。

したがって、買収した場所の状況、このあたりを十分検討しまして、工事の実施を考えているというところでございます。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員、

○11番（吉田敏郎）

大変なことだということは承知しておりますけれども、その整備交換というのを、町長答弁の中でもありましたけれども、その中で、やはりなかなか理解を得られない方がいらっしゃるということもお聞きしておりますけれども、その中で、そういった中で、そういう意味での整備効果を見ていただくためにも、少しまた、違う質問ではないかもしれませんが、この一定の距離、一連の距離感を、ある程度、今、5分割ぐらい、4分割、5分割とと言いましたけれども、その中で、そういう形を、そういう方たちに見ていただいて、そして、なるほど、こういうふうになれば、見る方向性に向かうなということを見ていただくためにも、そういう形で、早目に、ちょっと距離が短いかもしれないけれども、こういったところで、まず解消して、そういうのを結果を見ていただくと、そういうことは、難しいのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えします。町道204号線の改良工事につきましては、今回の件については平成25年度から調査等を開始しているところでございますけれども、現場においては、まだ、そういった、目に見える形のものがないというところが、議員がおっしゃっているとおりでございます。そういった部分でいきますと、やはりある一定の部分、整

備後というのは、こういう形になるのかなという形がありますと、地元の方の見方というのですか。そういった部分も影響があるというふうには認識してございます。そういったところでは、町長答弁でもございましたけれども、2020年度には着手というのが一つの目標でございますので、それに向かって、まずは来年度、一連のまとまった区間になるような形の中で買収を進めさせていただいて、その区間の中で、整備のほうを進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

今、課長のほうから、2020年度には工事、実施する方向で考えているということで答弁をもらいましたけれども、この2020年度に実施する方向で考えているということでもありますけれども、その一連のまとまった区間で、別に整理する可能が、分からなければ、できないことも分かりますけれども、この2020年度、難しいかもしれないけれども、やはりこの時期というのを、もし分かる、今の段階で、このくらいの時期にということが分からなければ、分かる範囲で、もしありましたら、教えてください。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

吉田議員の御質問にお答えしたいと思います。先ほど町長のほうからも答弁させていただきましたけれども、道路用地が確保できなければ工事はできないわけで、またその道路用地の確保も、一連の人つながりで、整備効果が上がる。ぶつ切りでは工できませんので、そういった状況の中を見た中で、2020年度ぐらいから工事を着手をしていきたい。ただ、先ほど課長が申しましたとおり、それはどういう形になるのか。5分割云々、どうのこうのという答弁をさせていただきましたけれども、それはまさに予算との関係がございますから、今、議員がおっしゃられる答えに対しては、未来の話ですので、予算も見積っていない話ですから、今ここで、では何メートルですとか、いつですということは、それは申しあげることにはできないということで御理解いただきたいと。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

そういう答えで理解をするところなのですけれども、やはり理解するというか、こちら2020年度は、そういう形で実施する方向で考えているよということを答弁があったならば、せめてというか、強い気持ちの答弁をちょっといただきましたかったなということでもありますけれども、確かに分かります。そのように、それをするまでに、いろいろなことがなれば、予算等々、またはそういう一定の、一連の距離の整備を

できる可能のあるところが、できなければできないで分かりますけれども、少しでも早く、そういう形でしていきたいと思う、そういう形の答弁をもらいたかったなど、そういうことであります。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

おっしゃられることはよく分かります。用地買収に応じていただいた方も、当然、用地を行政に売ったわけですから、できるだけ早く、自分の家の前はきれいにしてもらいたいというのは、これは当然、204に限らず、これは経験上ですけれども、当然の話ですから、それが一応まとまった区間で、事業執行した上で、先ほど、課長が申しあげましたとおり、短いと、効率が悪いわけです。工事費が高くなってしまいますので。そういった部分を見た中で、一定の区間で、事業効果が見込める距離になったら、事業を、工事をしていきたいと。また、それに向けて、用地取得は鋭意頑張っているつもりでございます。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

理解をせざるを得ないというか、そういうことは分かります。その中で、なかなか理解をいただけないのと、ちょっと前後をしてしまいますけれども、理解をしていただけではない方に対する、町からのそういうアプローチ云々の、そういう仕方について、ちょっと前後しますけれども、そういう方たちに対して、理解をいただいている人たちに対しては、非常に多いということは聞いておりますけれども、理解をうまくされてくれない人に対する、町としてのその方たちに対するアプローチというものを、やはりもう少し、なかなか難しいかもしれないけれども、そういう方たちにアプローチしていくというのは、今、どういう形でしているのか。また、どうふうにしていくつもりでいるのか、ちょっとその辺もお聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

先ほど町長の答弁もさせていただきましたが、全長が470メートルございますので、距離が長いわけです。路線の整備をしている中で、その部分について、先行して整備を進めてまいりたい。本来ならば、足柄大橋から南側については、既に整備済みになっていますから、それから延長していくというのが、一番よろしいかなとは思いますが、こればかりは、何とも、議員がおっしゃられるとおり、御理解いただけないという部分もございますから、まずは買収が可能で、整備効果が見込まれるところから整備をしていきたいと。当然、中間というか、ぶつ切りになってしまうわけですから、それはその工事が終わった後に、引き続き御理解を求めていくという形で考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

分かりました。それでは、答弁で話したように、大長寺のほうから、改修をしていくよということでもありますから、ぜひそちらのほう、少しでも早く、地元住民の人たちに、本当に204号線がうまく使えるように、そういう形で進めていっていただきたいと思います。ぜひそちらのほう、皆さんの努力等々を期待しておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、2項目の質問に入らせていただきます。

2項目めの質問であります。本町のイベント活性化策を問うということで、質問をさせていただきます。本町のあじさいまつり、阿波おどり、ひなまつりの三大祭りは、町内外から大勢の人が参加し、町民、開成町商工振興会、開成町工場会、行政、その他、企業等の協力のもと、盛大に開催をされております。しかしながら、近年、近隣において、同様のイベントが多数あり、参加人数が減少している感が否めないという感じがします。

各種イベントにおいて、さらに町の元気を盛り上げる必要があるのではないかと感じるところであります。

次の事項について、町の所見をお伺いいたします。一つ目としまして、イベントの活性化を図るため、必要な策を講じる考えはあるのか。

二つ目として、町のイベントに各自治会の山車を一堂に会した企画を設定したらどうか。以上、お願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、吉田議員の2問目について、お答えをいたします。はじめに、三大祭りの状況について、説明をさせていただきます。

2018、開成町あじさいまつりは、前回の第30回記念事業において決定した、町オリジナルあじさい、開成ブルーを核に、あじさいの美しさや、水と緑の田園風景のすばらしさを、情報発信いたしました。また、協働による事業運営を図るため、町商工団体、事業者、町民等の活力を最大限に活用し、北部地域活性化の推進、あじさいの花の充実、学びの場となるあじさいまつり、広域連携の推進、の四つを、重点テーマとし、今後のあじさいまつりにつながる記念事業を実施いたしました。今年度のまつりは、全体的に開花が早かったため、まつり期間前に、多くの来訪者が見られました。このことから、まつり期間中の来訪者数の推計は、17万9千人となり、減少となりましたが、受け入れた観光バスの台数は、141台で、過去最高のツアー数となりました。

また、土日を中心に、ミニSLの運行や、インスタ映えポイントの設置、開成ブルー目当ての方々など、多くの来訪者でにぎわいました。

第31回開成阿波おどりは、途中、激しい雨が何度か降りましたが、露店商が移動した役場北側臨時駐車場や明治ゴム北側の出店エリアに人が多く集まり、昨年と同等の観客数となりました。今回は過去最多の25連が参加し、コンテストにも19連エントリーをいただきました。

開成町瀬戸屋敷ひなまつりは、期間中の前半は、気温が低かったことや、2018年平昌オリンピックが開催されたことが影響して、客足が伸び悩んだことがありましたが、期間中の後半には各メディアで紹介されたことや、SNS等の口コミの影響により、客足が回復をし、昨年度並みの入者数となりました。

また、指定管理者の協力により、新たな視点での取り組みもあり、その結果、入込客数は1万3千703人でありました。

一つ目の質問、イベントの活性化を図るため、必要な策を講じる考えはあるかについて、お答えをいたします。ただいま申しあげたとおり、三大祭りの各イベントとも低迷しているわけではなく、年度ごとの増減の波はあるにしても、各実行委員会においては参加人数が減少しているという認識はしておりません。

しかしながら、マンネリ化を防止するためのイベントごとに実行委員会を開催をし、企画段階で意見を求め、自治会長会議等でも御意見を伺いながら実施をしております。

二つ目の御質問、町のイベントに各自治会の山車を一堂に会した企画を設定したらどうかについてお答えをいたします。山車については、現状を見ると、活用している自治会は少なく、そのようなイベントを要望している声は聞いておりませんが、そのような企画が提案され、独自のイベントという盛り上がりがあるようであれば、広報等の側面で支援を考えていきたいと思っております。ただし、現在実施している三大まつりに山車を取入れることは、物理的にも困難であると考えております。

毎回、各イベントの開催後には、次回の課題を抽出し、対応策を検討しておりますが、今後は広く町民の意見など聞けるよう工夫して実施していきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

町長から答弁をいただきました。あじさいまつり、阿波おどり、それから、ひなまつり等、低迷しているわけでもなく、非常に実行委員の方々の努力により、非常にいいお祭りとして運営ができていということをお答えいただきました。

しかしながら、マンネリ化を防止するためのイベントごとに、実行委員会の企画段階で意見を求めて、伺いながら実施させていただきます。町民の中で、非常にこのお祭りに関しては、各いろいろな団体等の協力により、非常に盛り上がっているということは、認識をさせていただきました。

まず、あじさい祭りについてちょっとお伺いしたいんですけども、あじさい祭り、今回は来訪者はちょっと減ったけれども、ツアーのバスが非常に141台も来て、5



倍から6倍等の、以前からよりもバスのツアーがきているということで、答弁をいただきました。その来訪者の方が、今、以前、町のほうで、街中を周遊する。そして、商店や飲食店に立ち寄れる、そういうようなマップといいますかそういうものを作成して配布しておりますけれども、なかなか町中の商店とか、飲食店のほうにまで、なかなか足を延ばしていただいて、そちらのほうでいろいろ利用していただくというのは、なかなかちょっと厳しい面も少し少ないのかなっていうのもちょっと聞きますのでそういった中でその立ち寄れる、ロードマップ、また、そういうのを新しく考えて、そういうものをまた制作して、配布するというお考えはでありますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

それでは、吉田議員の質問にお答えいたします。今の御提案なのですけれども、実際、過去に商工振興会のほう、飲食店組合が中心ですけれども、町内のマップを作成して、あじさい祭りで配ったという経緯は1回ございます。1回ございますけれども、結果的に、周遊マップの効果が出なかったということから、その意見、実施しようということが出てこないで、その1回限りで終わったという経緯があります。

町長答弁にもありましたとおり、四つの重点施策を考えていまして、特に近年は、北部活性化というところも視野に置いていまして、あじさい祭りの中で、スタンプラリー等を実施して、やっているという経過があります。

また、城北高校の生徒さんに協力をいただいて、町内の商店、飲食店でなくて、あじさいの里内等で出店している出店マップの充実というようなどころを実施していますので、この辺の地図が、見にくい、見やすい等の評価はありますけれども、これは効果的になっているのだろうという評価をしていますので、今後は、ここについては継続をしていきたいと考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

そういう形のマップ等もつくって、それは配布していることですので、少しでも、現場だけではなく、少しでも、周りが活性化するような形で、そういうのを利用して、少しでも、町の中にまで拡散させていただくような、散策していただくような、そういう形で、方向で、自分もそういうのを努力させていただきたいと思っておりますけれども、そういう形で、少しでも町の中が活性化するように、そういうことを、ぜひ町のほうからも、ちょっと後押しをしていただきたいと思います。

もう一つ、次の阿波踊りに関して、ちょっとお伺いさせていただきます。阿波踊りに関しましては、今、南の通りのほうで開催をしているわけですが、吉田島地区のちょっと河原町、上島、榎本、そして、みなみ地区、それからパレット、それから北部のほうの、金井島地区の、そちらで阿波踊りの連はしっかりと参加をしていた

だいているわけですがけれども、前にもちょっと質問したことありますけれども、そちらの吉田島地区の遠目のほうの、そちらのほうの高齢者の方とか、介護をしている、また、子どもさんが小さいとか、いろいろ等々あって、開催場所になかなか行けないと。行くことができなく、そして、楽しむことができない。前みたいに家の近くの道路、201号線のところでやってくれば、楽しめるのに、参加できるのに、という声も、そういう人たちから声を聞くことが多々あります。

そこで町道201号線等で、そういうところで開催をするというお考えはいかがでしょう。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

では、ただいまの質問にお答えさせていただきます。開催された当初というのは、もちろん、議員おっしゃるとおり、201号線を中心に、阿波踊りをやってきたという経緯がございます。この変遷が、201号線も幅が狭いとかいろいろそういうことを協議した中で、場所的には開成小学校の北側の信号のところから牛島交差点までの県道が整備されたことによって、ここを会場に移すというようなことで、もちろん連協等と相談し、最終的には実行委員会で決定している状況がございます。そんな中で、河原町、あるいは上島、榎本の方というのは、当初は、そういうところでやっていた経緯があるので、うちの近くでもう一度やってほしいという、御要望なのでしょうけれども、町の中心である場所で開催しているということで、場所を逆にみなみ地区に移してしまうと、今度、北部の方はより遠くなる。現在でも、開成駅から見学用のシャトルバスみたいなを出してくれないかみたいな御意見もございますけれども、実際そこは運行していなくて、実施をしているというふうな状況です。

場所的な問題、あるいは会場の広さ等を考慮して、現在の場所が一番いいということで、実行委員会で決定してございますので、その辺は当面、現在の場所で開催していくというふうに考えています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

そういう実行委員会の中でいろいろ議論していただいて、一番いいところでということで今現在のところで行っているということでもありますけれども。しつこいようですけれども、もう1回、お願いいたします。

開成町において、町民体育大会を4年に一度開催するということでもありますけれども、その阿波踊りを、4年に一度、そういうところでやるという、本当にしつこい話で申しわけないのですけれども、また、そういう町道で開催する。そして、総おどりを文命中学校のグラウンドでやると。そういうことに対して、また一言お願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

今、町民体育祭を4年に1回やるということで、阿波踊りも4年に1回町道に戻したらどうかという御提案なのですけれども、もちろん最終的には、実行委員会で決定することですから、御提案することはやぶさかではありませんけれども、なかなか難しいのかなと考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

まあ確かに今の場所でやって、非常に好評を得ているということもありますけれども、そういう一つ提案として、また話の中に一つ入れていただければと思っております。やるやらないは別にして、そういう話を、ぜひ実行委員会の中でしていただければと思っております。

それから、ひな祭りに関して、またこれも細かいことで申しわけないですけれども、質問させていただきます。今年、瀬戸屋敷、ひな祭り、2日、3日ほど行かせていただきましたけれども、瀬戸屋敷広場の前の敷地内の中のところに、昨年、木とか、ほかのところに、ちょっと花や提灯の飾りがあって、そういうことがあった。今年はそのようなのはなくて、非常にすっきりと言うか、簡素化して、そういう飾りがなかったんですけれども、ちょっと寂しい気もするねというような声も聞きましたので、その辺の、そういう形にしたこととか、そういう飾りをなくしたということに対して、これからもそういう形ですていくということのあらわれだと思っておりますけれども、その辺ちょっとお話お願いしたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（遠藤孝一）

お答えさせていただきます。瀬戸屋敷周辺に花や飾りを飾ったというのは、ちょっと記憶にいないのですが、事務局としては、ちょっと去年とここを変えたというような意識はございません。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

周りで、外ではなくて、中の瀬戸屋敷の中の、入った中の、あそこの今のいろいろな野菜とか、お弁当、それから風車等々している。そこに木があって、その周りにちょっと飾りがしてあったような気がするのですけれども、そういうことです。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

前回から、瀬戸屋敷が指定管理になりましてひな祭り実行委員会の中でも、お客さんを大きく呼び込むために、民間の力を借りたいということで、そこに一部アイデアを出してほしいということで、委託をして、昨年やったのは、ピンクの風船が飾ってあったのかなと思うのですけれども、今回も、オリエンタルコンサルタンツさんに、実行委員会の中で、ひな祭りの演出等をお願いしていますので、町がやったとか、やっていないということではなくて、実行委員会の中で、そのような形で、アイデアの中でやっていただいたので、そういう御意見があったということは、またその中でお伝えさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

吉田議員。

○11番（吉田敏郎）

意見として、またお願いしたいと思います。

また、もう一つ意見としてというか、その声の中で、非常に瀬戸屋敷の前の広場のところで、猿が元気に猿回しをやっていただいて、非常に子どもさん、親子さんに喜ばれているということは承知をしております。そして、その中で、町内、町外から来たお客さんで、毎年来ているという人もそうだったんですが、何人の人に聞いたのですけれども、やはり瀬戸屋敷の良さがちょっと損なわれるよと。できたら、猿回しさんには悪いかもしれないけれども、ちょっと瀬戸屋敷の前ではなくして、もうちょっと離れたところでやっていただけたらいいのになというそういう声がありましたので、これも一つの声として聞いていただいて、別にそれをどうこうしろということではありませんけれども、そういう声がありましたよということで、したいと思います。

瀬戸屋敷についても、また、あじさい祭り、阿波踊り、こういう開成町の三大祭り、また納涼祭りもございますけれども、そういうので、やはり町外からもかなりたくさんの方が見えてくれるということもあります。そういう中で、やはり開成町のブランディングということで、その中で、開成町の中では訪れたいという意向を高めるためにも、いろいろ検討していただいて、そういう開成町のブランディングを上げるために、そういう努力をしているということを承知しておりますけれども、これからもそういう形で、開成町のイベント等々で盛り上げていっていただきたいと思います。

第五次総合計画後期基本計画の中で、個性豊かな産業と文化を育成する町という、そういうのを通じて、商業の活性化をこれからも図っていきますよということがうたわれておりますので、ぜひそういうことも踏まえた中で、開成町のイベントの中で、少しでも盛り上げていただいて、少しでも活性化、そして、街中が、少しでも元気になり、にぎやかになり、潤うような、そういう形でいろいろ、民間の我々も含めて、いろいろお手伝いをしますけれども、町のほうとしても、行政としても、そちらのほう、より一層の努力をしていただいて、そういうものを続けていっていただきたいと思います。

そういうことで、こちらのイベントに関して、これからの活性化ということで、町のほうの、これからの、いろいろ意気込みというものも聞きましたので、これからもぜひそういうことで、さらにそれ以上のあれをやっていっていただきたいと思います。そこで早いですけれど、私の質問終了させていただきます。

○議長（茅沼隆文）

これで本日の予定の一般質問を全て終了いたしました。残りの一般質問を明日行います。

これにて散会いたしますお疲れさまでした。

午後 3 時 5 9 分 散会